

新型コロナウイルス感染症：注意喚起（続報）

1月19日に『保健センター便り（臨時号）』を配信しましたが、その翌日、患者数が一気に急増し、23日現在、540名（死亡数17名）を超えました。また武漢市では医療従事者14名（?15名の報道もあり?）の感染も確認され、21日には「ヒト-ヒト感染」も証明された、と中国政府専門家チームが明言しました。テレビや新聞で取り上げられる数も、日を追うごとに増えています。

日本政府は1月21日（火）に「新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する関係閣僚会議」を開催し、情報収集に最大限の努力を払うとともに、国民に対して引き続き迅速かつ的確な情報提供をおこない、安心・安全の確保に努めることを決定しました。

参照：『新型コロナウイルスに関連した感染症への対応について』

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/novel_coronavirus/siryu/taiou.pdf

1月22日（水）には世界保健機関（WHO）で緊急委員会が開催され「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」にあたるかどうかを協議しましたが、判断は保留となり、本日23日（木）再度、協議を継続することになりました。

参照：『新型コロナウイルス肺炎 WHO「緊急事態」かどうか23日に再協議へ』（NHK News Web）

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20200123/k10012255671000.html>

「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」（PHEIC: Public Health Emergency of International Concern）が宣言された事例は今まで5つあります。

- 1) 2009年4月：豚インフルエンザA（H1N1）:新型インフルエンザ
- 2) 2014年5月：野生型ポリオウイルスの国際的な拡大
- 3) 2014年8月：エボラ出血熱の西アフリカでの感染拡大
- 4) 2016年2月：ジカ熱の国際的拡大
- 5) 2019年7月：コンゴ民主共和国におけるエボラ出血熱の発生

SARS（重症急性呼吸器症候群：Severe Acute Respiratory Syndrome、2002年）も MERS（中東呼吸器症候群：Middle East Respiratory Syndrome、2012年）も PHEIC 宣言はなされず、致死率35%の MERS でさえ「緊急の注意を喚起する警告」に留めました。逆に今回、PHEIC 宣言したとすれば、それは MERS より深刻な事態であるということになります。

患者の対応、感染対策、退院後の経過観察などの具体的な方法については、国立感染症研究所感染症疫学センターのホームページに各種マニュアル、方針、暫定案が掲載されています。参照：『新型コロナウイルスに関する解説および中国湖北省武漢市等で報告されているコロナウ

イルス関連肺炎に関連する情報』

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/from-idsc/2482-corona/9305-corona.html>

前回紹介した、国立国際医療研究センター国際感染症センターの忽那賢志医師による情報サイトも新しくなりました。

参照：『新型コロナウイルス感染症の現状と評価（2020年1月21日現在）』

<https://news.yahoo.co.jp/byline/kutsunasatoshi/20200121-00159703/>

前回も書いたとおり、今週末から中国では春節（旧正月）に入ります。例年、のべ約30億！の中国人が国内外を移動。なおこの帰省ラッシュのことを「春運」といいます。

参照：『春運』（ウィキペディア）

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%98%A5%E9%81%8B>

2020年春節連休期間中、中国人の海外旅行者はのべ700万人超！になる見込みで、海外の人気渡航先トップ3は、①バンコク、②大阪、③東京。国別ランキングでは日本が第1位です。

参照：『2020年の春節連休は1月24日からスタート！ 今年の傾向は？』

<https://www.yamatogokoro.jp/36533.html>

政府は水際対策（流行地からの入国者・帰国者に対する検疫強化）を徹底する、とっていますが、もはや流入は避けられないでしょう。そのため徹底的に自己防衛（予防）に努めましょう。マスク着用、手洗い、うがいはもちろんですが、免疫力を保つためには保温・保湿、栄養、睡眠が大切です。皆さま、くれぐれもご注意ください！

埼玉県立大学保健センター